

# 野村グローバル・ボンド・アクティブ・ファンド (野村SMA・EW向け)

追加型投信／内外／債券

## 交付運用報告書

第9期(決算日2023年12月6日)

作成対象期間(2022年12月7日～2023年12月6日)

第9期末(2023年12月6日)	
基準価額	9,311円
純資産総額	9,493百万円
第9期	
騰落率	△ 2.6%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、世界債券アクティブファンド為替ヘッジ型 マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界先進主要国の公社債に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をはかることを目的として、運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

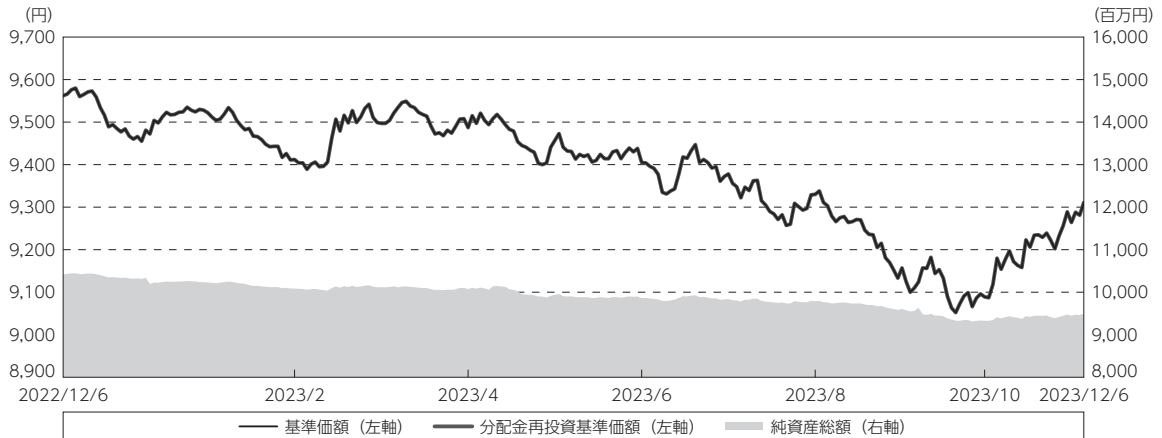


ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2022年12月7日～2023年12月6日)



期 首：9,562円

期 末：9,311円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 2.6% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2022年12月6日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指標は、1ヵ月円TIBORであり、利率表示のため、基準価額と併記する形でグラフ掲載はしていません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

## \* 基準価額は2.62%の下落

基準価額は、期首9,562円から期末9,311円に、251円の値下がりとなりました。

(上昇) 債券を保有していたことによるインカムゲイン(利息収入)。

(下落) 債券利回りが上昇(価格は下落)したことによるキャピタルロス(値下がり損)。

(下落) 対円で為替ヘッジを行なったことによるコスト(金利差相当分の費用)。

## 1万口当たりの費用明細

（2022年12月7日～2023年12月6日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 49	% 0.528	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(41)	(0.440)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（販売会社）	( 5)	(0.055)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（受託会社）	( 3)	(0.033)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	1	0.008	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	( 1)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	( 0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	50	0.536	
期中の平均基準価額は、9,368円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

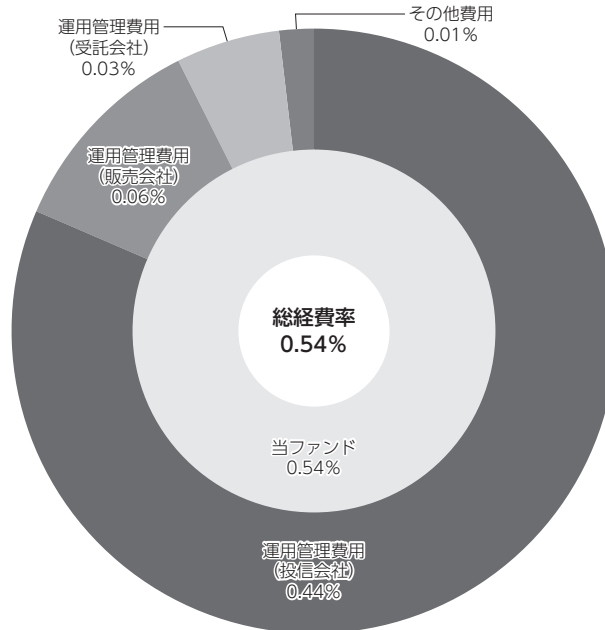
(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## （参考情報）

### ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.54%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

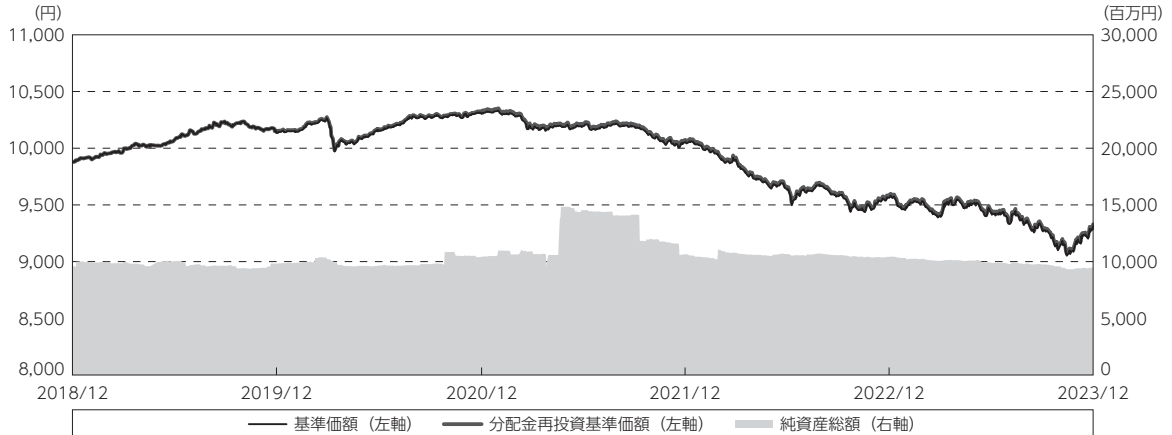
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託事務の処理に要するその他の諸費用等が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年12月6日～2023年12月6日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2018年12月6日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年12月6日 決算日	2019年12月6日 決算日	2020年12月7日 決算日	2021年12月6日 決算日	2022年12月6日 決算日	2023年12月6日 決算日
基準価額 (円)	9,881	10,134	10,302	10,054	9,562	9,311
期間分配金合計(税込み) (円)	—	10	10	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.7	1.8	△ 2.4	△ 4.9	△ 2.6
参考指標騰落率 (%)	—	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	0.1	0.1
純資産総額 (百万円)	9,592	9,820	10,422	10,641	10,420	9,493

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 参考指標は2021年12月末まで1ヵ月円LIBORを使用しておりましたが、2022年1月からは1ヵ月円TIBORに変更しております。参考指標の騰落率は、1ヵ月円LIBORと1ヵ月円TIBORをもとに当社が独自に累積再投資して算出したものです。

**投資環境**

（2022年12月7日～2023年12月6日）

**債券市場<国債利回りは米国・ドイツ・日本で上昇>**

米国市場では、インフレは鈍化基調となったものの、底堅い景気回復が継続したことで、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締めサイクルの長期化観測が市場の一部で高まったことなどから、債券利回りは上昇しました。期末にかけては、雇用市場に減速の兆しが見えたことなどを背景に債券利回りは急速に低下（価格は上昇）したものの、期を通じては債券利回り上昇となりました。

ユーロ圏では、域内景気の悪化が確認されたものの、ECB（欧州中央銀行）が金融引き締めを継続したことなどから、ドイツの債券利回りは上昇しました。

日本では、2023年7月、10月の金融政策決定会合で、日銀がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策の10年国債利回りの許容変動幅を実質的に拡大し、同政策の運営を柔軟化したことなどから、債券利回りは上昇しました。

**為替市場<米ドル、ユーロは円に対して上昇>**

海外の中央銀行による2024年における利下げ転換への期待や、日本のインフレ率上昇に伴う日銀の金融緩和修正観測などから、円高が進行する局面はあったものの、期を通じては、海外の中央銀行による金融引き締めを背景に、米ドルやユーロは円に対して上昇しました。

**当ファンドのポートフォリオ**

（2022年12月7日～2023年12月6日）

**[野村グローバル・ボンド・アクティブ・ファンド（野村SMA・EW向け）]**

期を通じて〔世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド〕 受益証券の組入比率を高位に維持しました。

**[世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド]**

米国、欧州（ユーロ圏・英国）、日本の国債などに分散投資を行ない、デュレーションについては、期初に2.5年程度としていましたが、債券利回りが上昇する中で段階的に長期化し、期末には4.0年程度としました。通貨変動リスクを低減するために、ファンド全体の外貨エクスポージャー<sup>※</sup>はおおむね1～7%程度と低位に維持しました。年限別では、安定した収益の確保をはかるための短・中期債への投資に加えて、長期債にも投資しました。

※外貨エクスポージャーとは、外貨建て純資産のうち為替ヘッジを行なわなかった額の純資産に対する比率。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2022年12月7日～2023年12月6日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

参考指標としている1ヵ月円TIBORの収益率<sup>\*</sup>が+0.06%となったのに対し、基準価額の騰落率は-2.62%となりました。

※期中における1ヵ月円TIBORをもとに当社が独自に累積再投資して算出したもの。

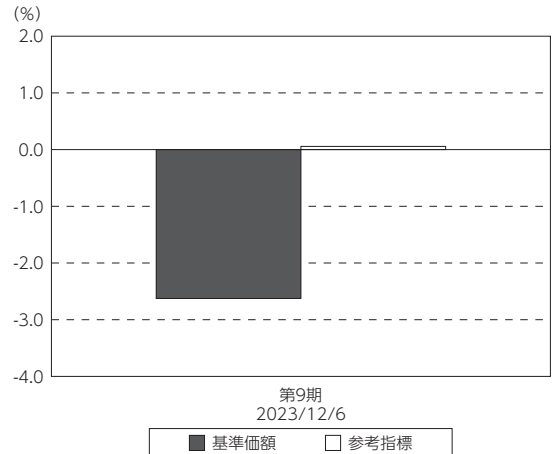
## （主なプラス要因）

債券を保有していたことによるインカムゲイン。

## （主なマイナス要因）

債券利回りが上昇したことによるキャピタルロス。  
対円で為替ヘッジを行なったことによるコスト。

## 基準価額と参考指標の対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

（注）参考指標は、1ヵ月円TIBORです。騰落率は、当社が独自に累積再投資して算出したものです。

## 分配金

（2022年12月7日～2023年12月6日）

当期の収益分配金は、基準価額水準等を勘案し、分配金のお支払いを見送りました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

## ○分配原資の内訳

（単位：円、1万円当たり・税込み）

項目	第9期	
	2022年12月7日～2023年12月6日	
当期分配金	-	
（対基準価額比率）	-%	
当期の収益	-	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	1,003	

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### 〔世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド〕

今後の運用につきましては、引き続き地域や銘柄の分散に配慮しつつ、安定的な収益の確保をはかるために金利リスクを適切に調整した運用を行ないます。邦貨建資産の額と外貨建資産のうち為替ヘッジを行なった資産の額との合計額は、原則として信託財産の純資産総額の90%程度を中心として、市場見直しに対応して調整を行ないます。

### 〔野村グローバル・ボンド・アクティブ・ファンド（野村SMA・EW向け）〕

〔世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド〕 受益証券を高位に組み入れ、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をはかります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

該当事項はございません。

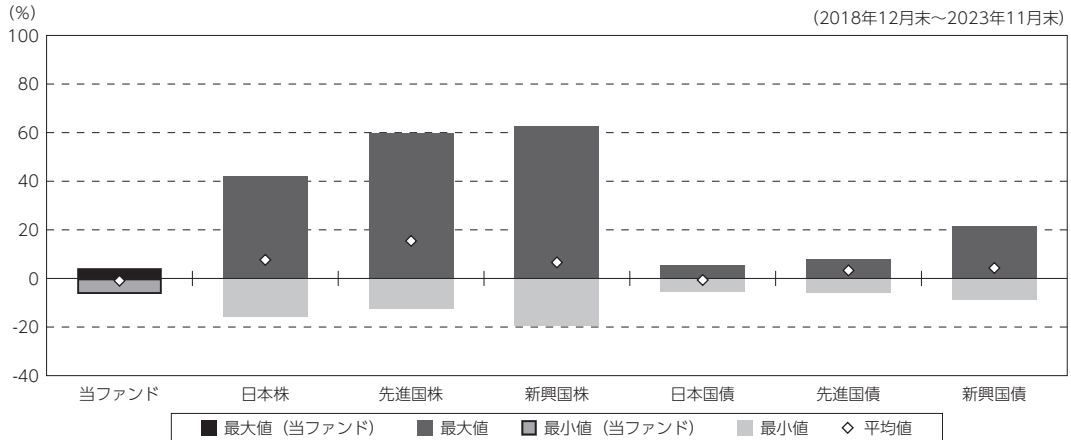
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2015年4月1日以降、無期限とします。	
運用方針	世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界先進主要国の公社債に実質的に投資し、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をはかることを目的として、運用を行なうことを基本とします。 為替ヘッジはマザーファンドにおいて行なうため、当ファンドにおいては原則として行ないません。	
主要投資対象	野村グローバル・ボンド・アクティブ・ファンド（野村SMA・EW向け）	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、公社債に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	日本を含む世界先進主要国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界先進主要国の公社債に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をはかることを目的として、運用を行なうことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	



## （参考情報）

### ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	4.2	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
最小値	△ 6.4	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	△ 0.9	7.6	15.4	6.6	△ 0.6	3.3	4.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### 《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

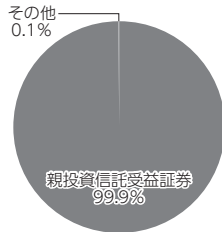
## 組入資産の内容

(2023年12月6日現在)

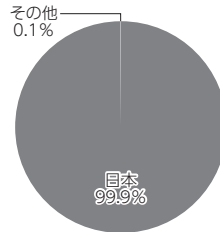
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド	99.9
組入銘柄数	1銘柄

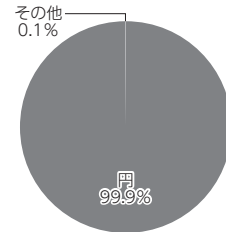
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第9期末
	2023年12月6日
純資産総額	9,493,371,023円
受益権総口数	10,195,787,473口
1万口当たり基準価額	9,311円

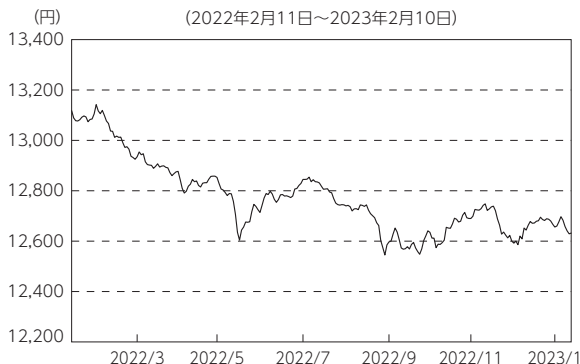
(注) 期中における追加設定元本額は399,727,106円、同解約元本額は1,101,647,557円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 世界債券アクティブファンド 為替ヘッジ型 マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2022年2月11日～2023年2月10日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 ( 保管費用 ) ( その他 )	1 (1) (0)	0.006 (0.006) (0.000)
合計	1	0.006

期中の平均基準価額は、12,771円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

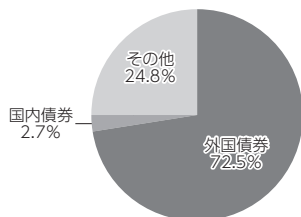
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

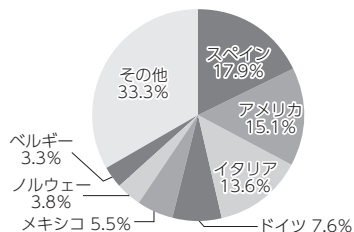
(2023年2月10日現在)

銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 BONOS Y OBLIG DEL ESTADO 0.35% 2023/7/30	国債	ユーロ	スペイン	9.7%
2 BUONI POLIENNALI DEL TES 2.45% 2023/10/1	国債	ユーロ	イタリア	7.9%
3 BONOS Y OBLIG DEL ESTADO 4.4% 2023/10/31	国債	ユーロ	スペイン	7.2%
4 US TREASURY N/B 1.5% 2025/2/15	国債	米ドル	アメリカ	5.5%
5 US TREASURY N/B 1.125% 2025/1/15	国債	米ドル	アメリカ	5.4%
6 BUONI POLIENNALI DEL TES 0% 2024/1/15	国債	ユーロ	イタリア	4.9%
7 MEX BONOS DESARR FIX RT 7.75% 2031/5/29	国債	メキシコペソ	メキシコ	4.2%
8 BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 1.7% 2032/8/15	国債	ユーロ	ドイツ	4.0%
9 LANDWIRTSCH. RENTENBANK 4.75% 2026/5/6	特殊債	豪ドル	ドイツ	2.5%
10 BELGIUM KINGDOM 0% 2027/10/22	国債	ユーロ	ベルギー	2.1%
組入銘柄数		31銘柄		

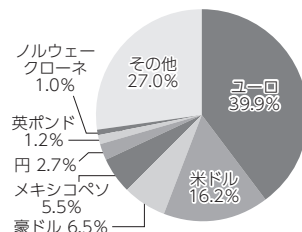
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】(為替ヘッジ前)



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

### ○MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国の J.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMSLLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）